

東舞子

2016/2/29 (3月号)
神戸市立東舞子小学校
平成27年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

「五心」を刻む

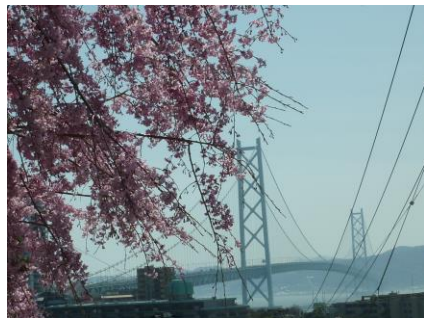
明日から3月、いよいよ春の足音が近づいてきました。今のクラス、今の先生と勉強するのも後わずかとなりました。もうすぐ、今年度は終わり、新しい学年の新しいクラスでの学習が始まります。出会いもあれば、別れもある、そういう季節です。先日、可愛らしい1年生の子が二人、校長室にやって来て「校ちょうせん生へ」と書かれたお手紙をくれました。中を開けますと、「〇〇先生をみんなといっしょに二ねん生のせんせいにしてください。おねがいします。」と、書かれていました。担任の先生への思いがこもった素敵なお手紙でした。願いが叶うかどうかは何とも言えませんが、担任の先生とクラスの子供たちの絆が感じられ、とても嬉しく思いました。

さて、校門と玄関の間の植え込みに、丸い大きな石が置かれているのをご存知でしょうか。石工の方をお呼びし見てもらいますと、何と本御影石で、今や採石できない大変貴重なものなのだそうです。希少な石、毎日子供たちが通り目にするものですので、大切にしたい言葉を刻むことにしました。そこで、どんな言葉が良いかといろいろ考えた末、「五心」と彫ることにしました。一昨年の学校だよりで紹介しましたが、「五色の滝」の謂れともなっている「日常の五心」の「五心」です。今から30年前の第6代喜多校長が大切にされていた言葉で、常に子供たちに語りかけておられた言葉です。「一、すみませんという反省の心 一、はいという素直な心 一、おかげさまという謙譲の心 一、私がしますという奉仕の心 一、ありがとうという感謝の心」が「五心」の中身で、いずれも大切な心掛けだと思います。石に刻まれた「五心」という言葉を見て、「五心って何だろう」と思ってくれば、低学年の間はあまり意味が分からなくても、高学年になるうちに意味も理解し、東舞子小学校で学んだ大切なことの中のひとつになるのではと勝手に思い描いています。東舞子で学んだ子供たちの心に「五心」がずっと刻まれ続けることを祈っています。この一年間、様々なお力添えありがとうございました。心より感謝申し上げます。



明石海峡大橋を望む “HIGAMAI WALKER” ②

3年前、本校に赴任した際、学校から望む明石海峡大橋の息をのむような雄大さ美しさに、しばらくの間、見とれていたことを思い出します。右の写真は、その時学校から写したものです。全長3,911m、中央支間長1,991mの世界一の吊り橋は、これからもずっと舞子のランドマークであると思います。いつも感じるのですが、先日、6年生と一緒にハチ高原から帰校する折、第2神明の玉津インター辺りでバスの車窓から遠く明石海峡大橋が見えてくると、「帰ってきたなあ」という実感が湧いてきました。ひがまいの子供たちは、成長しふるさとを離れ巣立って行ったとしても、帰神して明石海峡大橋が見えてくると、きっと「帰ってきた」としみじみ思うことでしょう。ふるさは、大きな存在感をもっていつでもここにあります。



校長 小野晃弘